

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	小規模で家庭的な雰囲気をもった普通の家です、老いの仲間と馴染みのある家具や道具に囲まれながらもその能力に応じ、共同して生活をしています。住み慣れた地域での安心した暮らし、関係性の継続、地域生活の継続を支えるための柔軟な支援を基本に置いています。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員の採用時には必ず理念を伝え理解をしてもらうようにしています。ミーティングや申し送りなどでも理念に触れ確認し合うようにしています。ミーティングでは理念を基に職員で話し合い、具体的なケアについて話し合いの統一を図っています。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族の方や地域の方が来られたときには伝えていますが、また、ホーム便りを活用したりしています。		もう少し、お茶会や見学などで地域に対して理解してもらうように取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	本人の体調に合わせ、散歩や買い物などに出かけていて、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。近隣の方の畑の作物の差し入れや暇を見てのお話し相手に来られる方もいる。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭りなど、利用者とともに積極的に参加している。民生委員の方がボランティアとして活動しに来てくれるなど、地域との交流がある。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の研修、会議等に参加している。又、実習生の受け入れも行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		職員にも会議等で話し合いの場をもって、理解に努めたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をしている。苦情や訴えがあったときには職員でミーティングを行い、改善に向けて取り組んでいる。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、利用者の心身の状況、食事、レクレーションなどの様子を記載した手紙をグループホーム便りを2～3ヶ月に1度発行している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会、訪問時に何時でも利用できるように玄関に苦情ポストを設立している。2ヶ月に一度、運営推進会議を開いている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング、会議などで職員からの意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者本意の生活が、できる限り支えられるよう、起床時や就寝時、入浴など、利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者との馴染みの関係は重要と考えています。ですから、離職等があった場合は、申し送り等で新しい職員に内容を知ってもらい、利用者にはきちんと紹介をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、研修報告書を作成してもらい全職員が閲覧できるようにしている。ステップアップのための勉強等は、業務時間等を調節し、バックアップしている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他の事業所との交流や勉強会を行いながら情報を共有し、介護の方法・安全に対する勉強会を開き、当事業所のサ・ビスの向上に努めています</p>	<p>ネットワークに加入すべく検討中です</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>折に触れて、職員のストレスや悩みを把握するよう努めています。また、職員との親睦の場をつくり、気分転換を図れる機会をつくっている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行っている。運営者も頻繁に現場に来ており、職員の業務や悩みを把握している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用者、家族と一緒に来所していただき、本人を交え、家族と一緒におやつや食事を摂ってもらい、さりげない会話で、要望を入手している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族に中の様子を見てもらい、日常生活で困っている事等を何回か来所していただき、話を聞いている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	今までの家族の介護状況や苦勞をよく聞いて、在宅時に利用していたサービス等を把握し安心して生活できるように配慮している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居を希望する利用者、家族に1ヶ月くらい前より、1日2～3時間くらい施設で過ごしていただき職員、施設に慣れてもらうよう支援している。入居時は家族に2～3日泊まってもらい、自然に馴染んでもらえるように支援してる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生経験の多い利用者に教えてもらう気持ちで、声掛けや協働できる事をセッティングするように心掛けている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、家族に利用者の様子を書いたお手紙を差し上げている。お手紙を読むことで最近の行動や気持ちの動き、体調等を把握できるよう配慮している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	いつでも家族と外出したり、外泊できるようにしている。要望により送り迎えも行い、通院も家族の意向があれば一緒に行っている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者が友人の顔を見たい、家に行きたい、又は、自分の家の様子を見に行きたい等のニーズに対して可能な限りの支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個別に話を聞いたり、職員も一緒にお茶を飲み、共通の話題を楽しめるよう配慮している。感情の起伏のある利用者は、職員が調整役となって利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院等で退去された利用者に月1～2回は継続して見舞いに行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや意向について感心を払い、把握するよう努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族の方などから情報を得るようにしている。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人自身からのお話や、家族の方が来られたときにお話を聞くなどして少しずつ把握に努めている。、		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人、家族からのお話を基にセンター方式の中の家族シート、私の暮らし方シート、生活史シートなどを作り活用しながら今の生活に生かせるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族に、思いや意見をもらいアセスメントし、職員間で意見交換等をし、利用者が自分らしく暮らせるように介護計画にいかしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	職員の申し送り等で情報を共有し、家族や本人の要望を取り入れ、期間が終了する前に見直しを行っている。又、利用者の状態変化に応じて見直しを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やけあの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個別に一日の介護日誌を付け、気づきや利用者の状態を細かく記載し、職員間で情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	いつでも家族が来所できるようにしており、一緒に食事をしたり、要望があれば宿泊もできるようになっている。 本人、家族の状況に応じて、通院や送迎など柔軟な対応をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、ボランティアの方々等、行事の時に手伝っていただき、一緒に食事を作ったり食べたりしている。 民謡の会を開いたりしている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人、家族の希望があれば、いつでも利用できるよう支援している。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	介護認定調査時は同席して本人の様子を話している。 運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、周辺情報や支援に関する情報交換があり協力関係が築かれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居前からかかっている地元の病院に継続して受診している。美深の病院にも定期的に受診し、投薬を受けている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	名寄、士別に毎月定期的に受診、投薬を受けている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所に看護師があり、通院時は付き添い受診している。常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、家族とも情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。また、なじみの職員が頻繁に見舞うようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時の契約に記載しており、家族にも知ってもらい、対応しえるケアについても説明を行っている。医療側、家族側、事業所と十分な話し合いを行っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族、医療機関施設とその都度話し合い、家族・本人の納得の行く方向に努力している。急変した場合もすぐ対応して頂けるよう医療機関とも蜜に連携を図り、対応している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他の事業所に移られた場合、アセスメントやケアプラン、支援状況等を提供し、情報交換を行い、馴染みの職員が機会を作って訪問に行くなど、ダメージを最小限に食い止めるよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ミーティングや申し送りのときに、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方を管理者が点検し、利用者のプライバシーを損ねないように対応している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	なるべく本人の意思を尊重し、分かりやすい説明を行いながら、自己決定できよう心掛けている。 意思表示が困難な方には、表情や動作を読み取ったりしながら行動を見守っています。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人のペースに合わせて運動、あるいはレク等を取り入れています。 マイペースで過ごしたい方は、その意思を尊重した生活を送れるように支援しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	髭剃り、身だしなみにも職員が日頃から気を付けて、対応・支援をしています。 理、美容を利用したい方は送迎等をしたり、そうでない方は職員が散髪などの支援をしています。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	調理の下ごしらえを手伝っていただいたり、食後の片付けや洗い物等も利用者とともに、職員と利用者が同じテーブルで楽しく食事できるようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人が望むアルコール類、おやつ、食べ物の要望があれば日常的に取り入れるようにしています。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツ等が必要とされる方にも時間を見てトイレ誘導をしトイレでの排泄を促しています。 排泄チェック表を使用し尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日を分けてはいますが、利用者のその日の希望を確認し入っていただいている。 又、時間も可能な限りの希望を取り入れて行っています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その日の体調に合わせた休息、または睡眠を確保したり、夜間巡回等で安全の確保をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常の家事仕事の手伝いの好きな方にして頂いたり、気分転換に散歩や季節の行事に出かけるなどしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人の希望や力に応じて、現金を所持したり、使えるよう支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望があれば一緒に買い物に出かけたり、天気の良い日は声掛けをして散歩等外出できる様に支援している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人が行きたいと思う遠くの場所への外出については家族と職員で話し合いながらおこなっている。場合によっては家族に協力を依頼することもある。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人から電話をしたいと希望があれば、電話の取次ぎ又は、用件を家族の方に伝えたりの支援をしている。年賀状や手紙なども出せるよう支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、友人の方々が来訪された時は、入居者の方の居室やホールなど、希望に沿って一緒に過ごしやすいように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待防止、身体拘束の研修を受け、ミーティング等で他職員に周知し防止に努めている。		自施設の身体拘束介護を振り返る機会を作っていきたい。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者が外出しそうな時には、さりげなく声をかけ一緒についていくなど、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。職員の見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態をキャッチすることで日中の自由な暮らしを支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者と同じ空間で、調理仕事や事務作業を行い、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間も巡回を行い、安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に応じて、注意の必要な物品は事務所にて預かり、危険防止に取り組んでいます。厳重に保管すべきもの、保管管理の必要なもの、利用者が使うとき注意が必要なものなど分けて管理している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	万が一の事故が発生した場合には、対応した職員に事故報告書を記入してもらい、ミーティング等を行い、今後の予防対策について検討し、家族への説明と連絡を行っている。		
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	一年に一回の救命救急の講習を受けている。緊急連絡網を作成し、対応にそなえている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	一年に一回避難訓練を行い、昼夜を問わず利用者が避難できるよう身に付けています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	日々の介護日誌を見ながら職員間で話し合い、共有し、抑制感の無い暮らしを大切にしている、家族にも見てもらったり、説明したりしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタル測定と状態の観察を行い、早期の異常発見に努め、発見時は速やかに受診行動や対応を行っています。情報は口頭、記録により申し送りを行い、情報を共有して対応するようにしています。		平素の状態を把握することにより異変の発見につながるので、介護の中で一人ひとりの全体像を把握していきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全介助、部分介助を行い、確実に服薬ができるように支援しています。処方された薬は薬局で説明を受け、更に「薬の説明」の用紙を見て確認しています。特に必要な事項については口頭や申し送りを紙に書いて注意するようにしています。		介助した職員は名前を書いて責任を明確にすることにより、意識付けにつながっているため、今後も続けていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	老人の特性を理解しつつ、食事の面では繊維の多い食材や、乳製品の摂取を多くするようにして対応しています。体調に応じた体操やレクリエーションを行い、なるべく体を動かすようにしています。		下剤の服用者が多いため、水分を多くして毎日排便の確認を行い、下剤の調整を行っています。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自分で入れ歯の管理をする方は口頭で促し、できない方に対しては声掛けや介助により歯磨きやすさを行っています。また、お茶等の飲用を多くしています。		夜間は、入れ歯洗浄剤に漬けて清潔を心掛け、日中も食物が口腔内に残渣物として残らないように、洗浄やうがいを促していきたい。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量、排泄状況の観察を行い、その都度問題が生じたときは対応を行っています。		体重測定を月一回行い体重の変動を観察しています。入浴時には皮膚の状態等も含め、全身の観察を行っていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがいや手洗いの徹底、インフルエンザの予防接種を行っています。高齢で免疫力も低下しているため、特に風邪予防対策に心掛けて環境の整備に気を付けています。		環境の整備や、早めに医療機関費の受診行動を行っていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	冷蔵、冷凍庫に保管したり、なるべく加熱して料理をお出しするようにしている。また、冷蔵、冷凍庫の食材の残りの点検を頻繁に行っている。布巾やまな板等は漂白剤に漬けて除菌しています。		自家栽培した無農薬野菜などを利用したり、山菜等安全な食材で調理する。生物はなるべく避けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前は、スロープと階段があり、邪魔にならない程度に植木や花等を置いています。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	光はカーテンやブラインド等で適度な明るさを保つようになっています。手作り絵やひな壇や繭玉を飾ったり、季節感を出したり、花等を飾っています。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールの中にソファを置いて、利用者さん同士で会話をしたり、レクをしたりするスペースがあります。又、あちこちに椅子があり、1人になりたい時に利用しています。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、本人の好みや馴染みの物等が置いてあり、利用者の居心地の良いうように配慮している。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天候にもよりますが、毎朝お部屋の窓をあけ空気入れ替えを行い、環境整備の中で換気には特に注意しています。又、温度計にて温度調節を行っています。		利用者一人ひとりが感じる温度は違うので、一人ひとりに合わせた衣類の調整を行っています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内は、ほとんどバリアフリーになっていて、和室は段差がハッキリ分かる高さになっており、腰を掛けながらくつろいだり、洗濯物等が片付けられる。また、ホールの周り、トイレ、廊下などに手すりをつけ歩行面での安全を図っている。居室に洗面台が設置され、馴染みの家具等を等も置いてある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の状況に合わせて環境整備に努めたり、不安や混乱が生じた場合ミーティング等で職員が同じケアをできるよう努めています。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の周りを整地、散歩できるようにしている。 建物の周りの畑に花や野菜を植え、楽しめるようにしている。		

サービスの実績に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない



サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・当グループホームは、利用者を主体としたゆったりとした生活を送っています。
- ・当グループホームは、食材にはこだわりを持っています。